

いのちの輝きを見つめる

Meiji



第148期 中間期
株主レポート

平成18年4月1日～平成18年9月30日

● 経営の基本方針

当社グループは、「食と健康」に関わるライフサイエンス事業領域を基盤とし、長年培ってきた技術や **Meiji** ブランドを最大限に生かしながらグローバルな企業として、お客様にとって価値のある商品・サービス・情報を提供してまいります。

そして、常に「おいしい・楽しい、健康、安心」を追求するとともに、健全な収益体制のもとで活力ある発展を目指し、社会への責務を果たしてまいります。

CONTENTS

株主の皆様へ	1
営業の概況（連結）	2
中間連結貸借対照表	6
中間連結損益計算書／中間連結キャッシュ・フロー計算書 ／中間連結株主資本等変動計算書	7
中間貸借対照表（単独）	8
中間損益計算書（単独） ／中間株主資本等変動計算書（単独）	9
業績の推移／連結子会社	10
Meiji News	11
新製品紹介	12
トピックス	14
役員／従業員／主要な事業所	16
株式の状況	17

2006年度経営方針

- 1 既存分野でのシェア拡大と新たな顧客ニーズへのチャレンジ**（フード&ヘルスケアカンパニー）
 - (1) 「健康」を中核としたビジネスモデルの確立
 - (2) チョコレート・ガム市場におけるシェア拡大と新ジャンルの確立
 - (3) 中国市場での事業拡大
- 2 構造改革の断行と新たな事業戦略の確立**（薬品カンパニー）
 - (1) 経営資源の重点投入によるジェネリック事業体制の構築
 - (2) 研究開発戦略の全面的見直しと開発3品目の開発スピードアップ
 - (3) 感染症・中枢神経系領域における営業力の強化と国内外での売上拡大
- 3 CSR（企業の社会的責任）経営の徹底**
 - (1) 「安全・安心」な商品提供
 - (2) コンプライアンスの組織内への徹底
- 4 「バランス・スコア・カード」を活用した目標管理の徹底**

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当社は平成18年9月30日をもちまして、第148期事業年度（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）の上半期を終了いたしましたので、営業の概況等をご報告申し上げます。

なお、当中間期より当社グループの事業概況を、「株主レポート」としてご報告することといたしましたので、ご高覧いただければ幸甚に存じます。

さて、当中間期における当社グループの業績は、後掲の「営業の概況」にも記載のとおり、フード&ヘルスケア事業で、大人向けの市場開拓を他社に先駆けて展開し、チョコレートが大幅に伸長するとともに、アミノコラーゲン・ザバスが販促活動の強化や新商品の投入により大幅な増売となるなど、薬価改定による薬品事業の減売を吸収し、グループ全体の売上高は前年同期を上回ることができました。一方、中間純利益では、薬価引下げや原材料費の高騰等の影響もあり前年同期を下回りましたが、当初設定した計画を上回る水準で推移し、ほぼ予定通りに進捗いたしました。

当社グループでは、4月から本年を初年度とする3年間の中期経営計画「DASH!08」の実現に向け、鋭意取り組みを開始しており、順調なスタートを切ったと考えております。主要事業の取り組みとしては、フード&ヘルスケア事業では、高カカオ商品を始め機能性を重視した商品を中心に、さらなる大人向け市場の拡大を積極的に推進し、チョコレート・ガム市場におけるシェア拡大を図っております。また、「健康」を中核とした特徴あるビジネスモデルとして、本年12月に「ザバススポーツクラブ デルタ」（大阪府高槻市）をオープンいたしました。これを機に「食とスポーツの融合」による健康ソリューションビジネスを積極的に展開してまいります。

薬品事業では、CNS（中枢神経系領域）の専任MR（医薬情報担当者）の増強による営業力強化や新薬開発のスピードアップに注力するとともに、医療費抑制策が強化

されるなかで市場の伸長が期待できるジェネリック分野において、新製品を発売するなど、事業分野の拡大を図り、「スペシャリティ&ジェネリック・ファーマ」としての事業強化に努めております。

海外事業では、中国ビジネスの拡大に向けた生産・販売体制を確立いたしました。特に本年8月には明治製菓食品工業（上海）有限公司の工場が完成し、チョコレートの生産を開始するとともに、中国国内での営業網を整備いたしました。

なお、当期の中間配当金につきましては、1株につき金3円50銭と決定させていただきましたので、なにとぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後とも一層のご愛顧ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年12月



代表取締役
社長 佐藤尚忠

営業の概況（連結）

（平成18年4月1日から平成18年9月30日まで）

当中間期におけるわが国経済は、企業収益の改善や設備投資の増加が進み、景気は回復しているものの、原油価格の高騰および原材料価格の上昇による影響が懸念され、先行きが見定めにくい状況にあります。

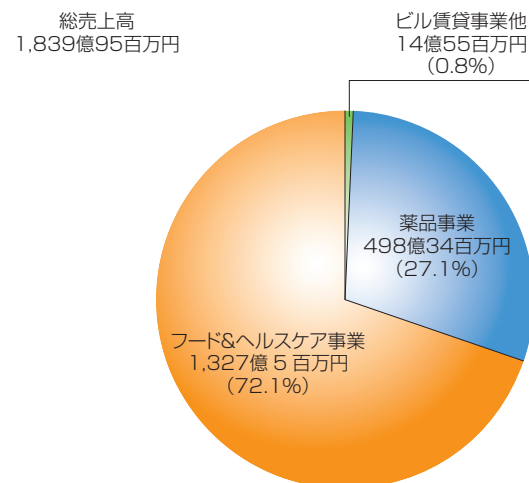
このような事業環境下、当社グループは、当期を初年度とする3ヵ年の中期経営計画「DASH!08」を策定し、計画達成に向けた初年度の諸施策の実現に全グループ一丸となり、取り組んでまいりました。

この結果、当中間期における連結売上高は1,839億95百万円（前年同期比4.5%増）となりましたが、本年4月に実施された薬価改定や原材料高騰の影響で、連結中間純利益は8億49百万円（同47.9%減）となりました。

当社グループの事業別売上高の状況は下のグラフのとおりであります。

なお、当中間期の連結子会社は、10ページに記載しております。

●売上高構成比（当中間期）



フード＆ヘルスケア事業を取り巻く環境は、菓子の消費は依然として横ばいに推移し、また拡大基調であった健康分野も大型新商品がみられず市場が停滞しました。

このような状況下、当社グループは消費者ニーズを先取りした差別優位性のある新商品開発や戦略的なブランド別マーケティングを展開し、高カカオ市場やコラーゲン市場を牽引し、売上の拡大に努めてまいりました。

この結果、フード＆ヘルスケア事業の連結売上高は1,327億5百万円（前年同期比8.2%増）となりました。

菓子事業につきましては、チョコレートは、大人向けの市場開拓を他社に先駆けて展開したことにより、好調に推移しました。「チョコレート効果」は消費者の健康志向を背景に高カカオ市場を牽引し、大幅に増売しました。また、本年9月に発売した、選ぶ楽しさを兼ね備えた本格志向の大人向け商品「シヨコライフ」の販売も売上に寄与しております。「ミルクチョコレート」は発売80周年キャンペーンの積極的な取組みにより順調に推移しました。さらに

「ブラックチョコレート」も好調に推移しました。一方、「アーモンドチョコレート」「マカダミアチョコレート」は前年同期並みに推移しました。

ガムは、主力の「キシリッシュ」に新商品を投入、併せてキャンペーンを展開したことにより好調に推移しました。キャンデーは、「ぶぶるん」がテレビCMの奏功などにより大幅な増売となりましたが、「チェルシー」「ハイレモン」「ヨーグレット」は減



売となりました。スナックは、「カール」が減売となりましたが、「プリングルズ」は店頭露出の強化により大幅に伸長しました。

健康事業につきましては、「アミノコラーゲン」はテレビCMおよび販促活動の強化により大幅な増売となりました。



。「ザバス」は“もっと飲みやすく”をテーマに開発したスポーツドリンク感覚のザバスプロテイン「アクア」を新発売し、好調に推移しました。カシス商品は、カシスの優れた機能性に関する普及活動を積極的に展開し、市場の拡大に努めましたが減売となりました。また、大幅リニューアルした「ローラ」やゼリー飲料は



好調な売上を確保しました。なお、血中で糖として吸収されにくい新しい甘味料「GF2（ジー・エフ・ツー）顆粒」を本年7月に通信販売で発売し、売上の拡大に努めております。

一方、ココアは市場が低迷するなか、販売経路の開拓により、主力の「ミルクココア」や「テオブロココア」が好調に推移し、銀座カリーも店頭販促活動に努め、前年同期並みの売上を確保しました。うがい薬「イソジン」は店頭露出を強化するなど販促活動に取り組みましたが、競争激化により減売となりました。

これらの結果、健康事業全体では好調に推移しました。



海外事業につきましては、輸出は、米国・香港・シンガポール・中国等への販売がチョコレートをはじめ堅調に推移しました。また、台湾・韓国では、コンビニエンスストアへの取組みを強化し、売上が大きく伸長しました。さらに、シンガポールを中心に「アミノコラーゲン」等の輸出も順調に展開しております。輸入においても、クラフト社のコートドールブランドをはじめとするチョコレートが大きく伸長し、主力のスナイダース社のプレッツェルも順調に推移しました。



業務用食材事業につきましては、技術力を活かした商品開発および客先ニーズに的確に応える提案ビジネスを行った結果、チョコレート・ココア関連製品は好調に推移しました。また、本年9月に発売した「カシスチョコレートアイスバー」等、冷菓も売上に寄与しております。さらに、メーカー等への果汁・果実、コンビニエンスストア向け弁当商材やデザートが売上を伸ばし増売となりました。

■菓子事業主要製品

チョコレート（ミルクチョコレート、チョコレート効果、ショコライフ、ブラック、ハイミルク、ホワイト、ストロベリー、ノワール、メルティーキッス、ポルテ、アーモンド、マカダミア、うすまきアーモンド、フラン、きのこの山、たけのこの里、ホルン、ガルボ、レガ、ショパン、ブッカ、アポロ、マーブル、チョコベビー、プチアソートほか）、ガム（キシリッシュほか）、キャンデー（チエルシー、ヨーグレット、ハイレモン、果汁グミ、ポイフル、キュン、ぷぷるん、もぎもぎフルーツ、サイコロキャラメルほか）、スナック（カール、カールスティック、北海道ポテト、ピックアップほか）、ビスケット（マクビティ、コパンほか）

連結子会社の状況につきましては、国内では、株式会社明治フードマテリアは、主力の砂糖の価格が上昇したことにより増売となりました。蔵王食品株式会社は、高カカオの「チョコレート効果」群の増売により、また、岡山県食品株式会社は、「アミノコラーゲン」「ザバス」を中心に大幅に伸長しました。海外では、明治製菓シンガポール社は、主力の「ヤンヤン」「ハローパンダ」が現地市場および近隣諸国で伸長するとともに、新たに連結子会社となった粉乳調製品製造会社であるファイブスターズ・デイリー・イングリディエンツ社も売上に寄与しました。また、米国スタウファービスケット社も大型OEM品の受注等により順調に推移しました。

■健康事業（一般用医薬品含む）・業務用食材事業主要製品 —
アミノコラーゲン、ザバス、カシス i、ローラ、パーフェクトプラス、プロテインダイエット、GF2、嗜好飲料（テオプロ、ミルクココア、ハイレモンドリンクほか）、レトルトカレー（銀座カリー、銀座ハヤシ、銀座カリー上・ビーフほか）、調理食品（JALスープ、銀座スープほか）、農産缶詰
イソジンうがい薬、イソジンのどフレッシュF、解熱鎮痛薬バイエルアスピリン、明治Gトローチ、かぜ薬ヘルピックス顆粒、ミニドリンク剤活参28ほか
業務用菓子・食品材料、砂糖、糖化製品ほか

薬品事業を取り巻く環境は、本年4月に実施された業界平均6.7%の薬価引き下げ等、医療費抑制策の浸透、新薬開発を巡る競争激化や研究開発費用の増大等により引き続き厳しい状況が続いております。また、農薬・動物薬においても、企業間競争の激化に加え、ポジティブリスト制度の導入など行政による規制・指導も一段と強化され、厳しい事業環境に終始しました。このような状況下、当社グループは、医療用医薬品、農薬・動物薬ともに、主力品目を中心に着実な学術普及活動と積極的な営業活動を展開しましたが、連結売上高は498億34百万円（前年同期比4.4%減）となりました。

医療用医薬品につきましては主力の抗うつ薬「デプロメール」が好調に売上を伸ばし、また、抗不安薬「メイラックス」も堅調に推移しましたが、抗菌薬「メイアクト」「ホスミシン」「オメガシン」および「スオード」は、市場の縮小に加え、薬価改定の影響もあり減売となりました。また、外用消毒薬「イソジン」についても競争の激化等により減売となり、総じて厳しい結果となりました。



ジェネリック品は、既存の抗菌薬「バンコマイシン MEEK」や抗ウイルス化学療法剤「ビクロックス」の好調に加え、本年7月以降6製品を新たに発売し、順調に売上を伸ばしました。

農薬は、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」が、発売以来の継続的な製品ラインナップの拡充や着実な普及活動により、好調に売上を伸ばし、全体としても順調に推移しました。

動物薬は、家畜用動物薬が減売となりましたが、コンパニオンアニマル用医薬品、水産用医薬品等の増売により、全体としては前年同期並みの売上を確保しました。

海外事業につきましては、主力の「メイアクト」、飼料添加物「コリスチン」は、前年同期並みの売上となりましたが、積極的な営業活動により抗悪性腫瘍剤「ドキシソルピシン」、関節機能改善剤「アダント」等が好調に推移し、大幅な増売となりました。なお、「メイアクト」の米国における販売展開については、本年10月、パーデュー社との提携を解消し、コーナーストーン バイオファーマ社(アメリカ)との新たな提携契約を締結しました。

連結子会社の業績につきましては、国内では、北里薬品産業株式会社は、インフルエンザワクチンが好調に推移し、全体として前年同期並みの売上を確保しました。海外では、東南アジアのP.T.メイジ・インドネシア社およびタイ・メイジ社は、積極的な販売促進により「メイアクト」「コリスチン」を中心に売上を伸ばしました。また、スペインのテデック・メイジ・ファルマ社も、「メイアクト」をはじめ販売が好調に推移し、全体として大幅に売上を伸ばしました。

■薬品主要製品

医療用 抗菌薬 (メイアクト、ホスミシン、ハベカシン)、
医薬品 スオード、オメガシン、シプロキササンほか)、中

枢神経系用薬 (抗うつ薬デプロメール、抗不安薬メイラックス)、その他の医療用医薬品 (外用消毒薬イソジン、アレルギー性疾患治療薬エバステル、抗悪性腫瘍薬テラルピシン、抗ウイルス化学療法薬ビクロックスほか)、人体用ワクチン

農薬 動物薬

農薬 (Dr.オリゼプリンス、オリゼメート、ハービー、アグレプト、ジベレリンほか)、動物薬 (メイポール、メイリッチ、アストップ、マイコバスター、ポセイドン、マリンバンテル、小動物用薬品ほか)、飼料添加物 (コリスチン、セルラーゼほか)

ビル賃貸事業他

首都圏における大規模ビルの需要は企業業績の回復で拡大しており、主力のオフィスビル「ソリッドスクエア」は、新規テナントの積極的誘致で高い入居率を維持し、引き続き好調に推移しました。

この結果、ビル賃貸事業他としての売上高は14億5500万円 (前年同期比13.9%増) となりました。



ソリッドスクエアビル

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成18年9月30日現在)	前 期 (平成18年3月31日現在)	科 目	当中間期 (平成18年9月30日現在)	前 期 (平成18年3月31日現在)
資産の部	346,404	348,281	負債の部	186,057	187,622
流動資産	148,359	153,293	流動負債	112,046	86,976
現金および預金	12,115	18,980	支払手形および買掛金	32,952	27,164
受取手形および売掛金	76,008	78,519	短期借入金	23,620	23,511
たな卸資産	47,318	43,752	社債(1年以内償還)	20,000	—
繰延税金資産	6,475	5,765	コマーシャルペーパー	2,500	—
その他	6,462	6,304	未払費用	13,870	12,654
貸倒引当金	△ 20	△ 28	未払法人税等	1,144	4,170
固定資産	198,045	194,988	賞与引当金	4,499	4,345
有形固定資産	136,787	136,764	売上割戻引当金	4,491	4,713
建物および構築物	72,229	73,036	その他	8,966	10,417
機械装置および運搬具	35,948	35,976	固定負債	74,011	100,645
工具器具備品	2,052	2,123	社債	20,000	40,000
土地	24,072	23,968	長期借入金	14,328	17,485
建設仮勘定	2,483	1,658	長期繰延税金負債	15,425	13,642
無形固定資産	6,192	6,271	退職給付引当金	20,776	24,765
のれん	2,841	—	役員退職慰労引当金	293	533
連結調整勘定	—	2,635	その他	3,188	4,218
その他	3,351	3,636	少数株主持分	—	2,897
投資その他の資産	55,065	51,951	資本の部	—	157,761
投資有価証券	46,725	45,064	資本金	—	28,363
長期繰延税金資産	293	284	資本剰余金	—	34,948
その他	8,989	7,546	利益剰余金	—	79,595
貸倒引当金	△ 943	△ 943	株式等評価差額金	—	17,730
資産合計	346,404	348,281	為替換算調整勘定	—	△ 642
			自己株式	—	△ 2,233
			負債・少数株主持分および資本合計	—	348,281
			純資産の部	160,346	—
			株主資本	138,931	—
			資本金	28,363	—
			資本剰余金	34,948	—
			利益剰余金	77,876	—
			自己株式	△ 2,256	—
			評価・換算差額等	18,091	—
			その他有価証券評価差額金	18,086	—
			繰延ヘッジ損益	611	—
			為替換算調整勘定	△ 607	—
			少数株主持分	3,323	—
			負債および純資産合計	346,404	—

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 218,825百万円 217,436百万円
 2. 受取手形割引高 128百万円 76百万円
 (備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 中 間 期	前 中 間 期
	(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)
売上高	183,995	176,097
売上原価	104,420	99,171
返品調整引当金繰入額	—	10
返品調整引当金戻入額	20	—
売上総利益	79,594	76,916
販売費および一般管理費	77,206	72,483
営業利益	2,387	4,433
営業外収益	1,455	1,069
受取利息・配当金	761	391
持分法による投資利益	33	45
その他の営業外収益	660	632
営業外費用	1,219	1,201
支払利息	652	642
その他の営業外費用	567	559
経常利益	2,623	4,300
特別利益	240	311
固定資産売却益	185	251
その他の特別利益	54	60
特別損失	1,000	632
固定資産廃棄損	866	499
その他の特別損失	134	133
税金等調整前中間純利益	1,863	3,979
法人税、住民税および事業税	994	900
過年度法人税等戻入額	605	103
法人税等調整額	400	1,290
少数株主利益	224	261
中間純利益	849	1,630

(注) 1株当たりの中間純利益 2円23銭 4円25銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 中 間 期	前 中 間 期
	(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	4,129	3,871
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 8,639	△ 11,284
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 2,846	△ 1,566
現金および 現金同等物に係る換算差額	△ 71	35
現金および 現金同等物の増減額(減少：△)	△ 7,427	△ 8,944
現金および 現金同等物の期首残高	18,755	22,646
新規連結による現金 および現金同等物増加額	2	—
現金および 現金同等物の中間期末残高	11,330	13,702

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結株主資本等変動計算書

(平成18年4月1日から
平成18年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等				少 数 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日残高	28,363	34,948	79,595	△ 2,233	140,673	17,730	—	△ 642	17,088	2,897	160,659
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当			△ 2,478		△ 2,478						△ 2,478
役員賞与金			△ 91		△ 91						△ 91
中間純利益			849		849						849
自己株式の取得				△ 31	△ 31						△ 31
自己株式の処分		0		8	8						8
連結子会社の増加による剰余金増加高				1	1						1
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						356	611	35	1,003	426	1,429
中間連結会計期間中の変動額合計	—	0	△ 1,719	△ 23	△ 1,741	356	611	35	1,003	426	△ 312
平成18年9月30日残高	28,363	34,948	77,876	△ 2,256	138,931	18,086	611	△ 607	18,091	3,323	160,346

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間貸借対照表(単独)

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前 期
	(平成18年9月30日現在)	(平成18年3月31日現在)
資産の部	314,946	316,698
流動資産	121,906	128,105
現金・預金	5,448	11,693
受取手形および売掛金	62,475	67,120
商品・製品・半製品	28,461	20,958
原材料	10,739	7,159
仕掛品	539	8,445
繰延税金資産	5,574	4,975
その他の流動資産	8,675	7,768
貸倒引当金	△ 7	△ 15
固定資産	193,039	188,592
有形固定資産	119,543	120,292
建物および構築物	65,291	66,359
機械装置	28,878	29,109
車両運搬具	100	98
工具器具備品	1,662	1,731
土地	21,348	21,400
建設仮勘定	2,261	1,593
無形固定資産	3,116	3,012
投資その他の資産	70,380	65,287
投資有価証券	44,072	42,226
関係会社株式	15,855	15,855
出資金	498	457
関係会社出資金	5,910	4,163
長期貸付金	3,170	1,709
その他の投資	1,815	1,818
貸倒引当金	△ 943	△ 943
資産合計	314,946	316,698

科 目	当中間期	前 期
	(平成18年9月30日現在)	(平成18年3月31日現在)
負債の部	166,592	167,417
流動負債	96,050	70,602
支払手形および買掛金	26,964	22,909
短期借入金	19,148	16,663
社債(1年以内償還)	20,000	—
マーシャルペーパー	2,500	—
未払金	6,948	4,843
未払費用	11,062	10,243
未払法人税等	203	3,198
賞与引当金	3,944	3,827
返品調整引当金	270	290
売上割戻引当金	4,491	4,713
その他の流動負債	516	3,913
固定負債	70,542	96,814
社債	20,000	40,000
長期借入金	12,723	15,522
長期繰延税金負債	14,732	12,947
退職給付引当金	19,876	23,939
役員退職慰労引当金	270	448
その他の固定負債	2,938	3,957
資本の部	—	149,280
資本金	—	28,363
資本剰余金	—	34,948
資本準備金	—	34,935
その他資本剰余金	—	12
利益剰余金	—	70,908
利益準備金	—	7,090
任意積立金	—	55,851
固定資産圧縮積立金	—	22,851
別途積立金	—	33,000
当期未処分利益	—	7,965
株式等評価差額金	—	17,294
自己株式	—	△ 2,233
負債および資本合計	—	316,698
純資産の部	148,353	—
株主資本	130,038	—
資本金	28,363	—
資本剰余金	34,948	—
資本準備金	34,935	—
その他資本剰余金	13	—
利益剰余金	68,982	—
利益準備金	7,090	—
その他利益剰余金	61,892	—
固定資産圧縮積立金	22,079	—
別途積立金	36,500	—
繰越利益剰余金	3,312	—
自己株式	△ 2,256	—
評価・換算差額等	18,314	—
その他有価証券評価差額金	17,702	—
繰延ヘッジ損益	611	—
負債および純資産合計	314,946	—

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 196,630百万円 196,058百万円
 2. 受取手形割引高 128百万円 76百万円
 (備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書(単独)

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	科 目	当中間期	前中間期
	(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)		(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)
売 上 高	134,463	131,263	特 別 利 益	230	304
売 上 原 価	65,479	64,027	固定資産売却益	181	244
返品調整引当金繰入額	—	10	その他の特別利益	49	60
返品調整引当金戻入額	20	—	特 別 損 失	844	574
売 上 総 利 益	69,003	67,226	固定資産廃棄損	839	475
販売費および一般管理費	68,869	64,905	その他の特別損失	4	98
営 業 利 益	134	2,321	税 引 前 中 間 純 利 益	579	2,919
営 業 外 収 益	2,123	1,873	法人税、住民税および事業税	61	61
受取利息・配当金	1,418	1,113	過年度法人税等戻入額	597	103
雑 収 入	704	760	法人税等調整額	477	1,280
営 業 外 費 用	1,064	1,005	中 間 純 利 益	638	1,682
支 払 利 息	548	543	前期繰越利益	—	1,430
雑 損 損	516	462	中間未処分利益	—	3,112
経 常 利 益	1,192	3,189			

(注) 1株当たりの中間純利益

1円68銭

4円38銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間株主資本等変動計算書(単独)

(平成18年4月1日から
平成18年9月30日まで)

(単位：百万円)

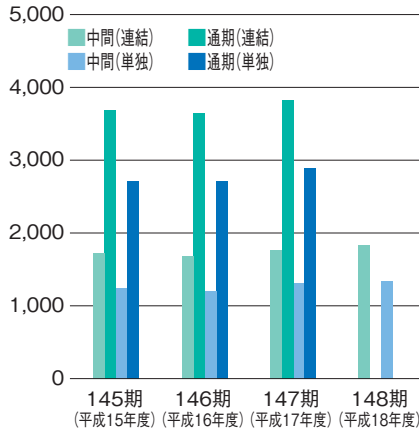
	株 主 資 本							評 価 ・ 換 算 差 額 等				純資産 合 計	
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金			自己 株式	株主資本 合 計	その 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益		評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金		そ の 他 利 益 剰 余 金								
					固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金						
平成18年3月31日残高	28,363	34,935	12	7,090	22,851	33,000	7,965	△ 2,233	131,986	17,294	—	17,294	149,280
中間会計期間中の変動額													
剰余金の配当							△ 2,478		△ 2,478				△ 2,478
取締役賞与金							△ 86		△ 86				△ 86
固定資産圧縮積立金繰立額					432		△ 432						—
固定資産圧縮積立金取崩額					△ 1,204		1,204						—
別途積立金積立額						3,500	△ 3,500						—
中間純利益							638		638				638
自己株式の取得								△ 31	△ 31				△ 31
自己株式の処分			0					8	8				8
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(総額)										408	611	1,020	1,020
中間会計期間中の変動額合計	—	—	0	—	△ 772	3,500	△ 4,652	△ 23	△ 1,948	408	611	1,020	△ 927
平成18年9月30日残高	28,363	34,935	13	7,090	22,079	36,500	3,312	△ 2,256	130,038	17,702	611	18,314	148,353

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

業績の推移

売上高

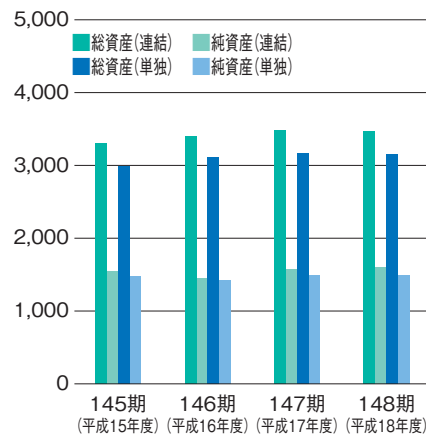
(単位：億円)



中間(連結)	1,720	1,677	1,760	1,839
通期(連結)	3,688	3,640	3,824	—
中間(単独)	1,242	1,207	1,312	1,344
通期(単独)	2,719	2,715	2,891	—

総資産・純資産

(単位：億円)

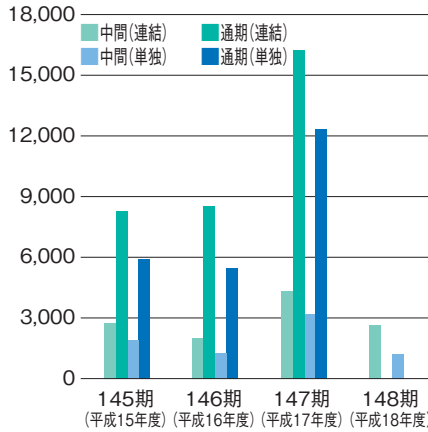


総資産(連結)	3,300	3,398	3,482	3,464
総資産(単独)	2,988	3,113	3,166	3,149
純資産(連結)	1,545	1,448	1,577	1,603
純資産(単独)	1,480	1,382	1,492	1,483

(注) 各期末日現在。ただし、148期(平成18年度)は9月30日現在。

経常利益

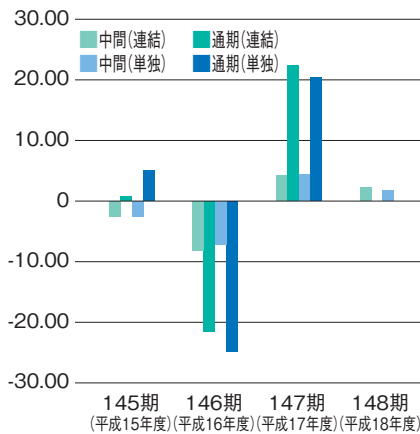
(単位：百万円)



中間(連結)	2,710	1,992	4,300	2,623
通期(連結)	8,243	8,503	16,160	—
中間(単独)	1,916	1,276	3,189	1,192
通期(単独)	5,892	5,450	12,254	—

1株当たりの純利益

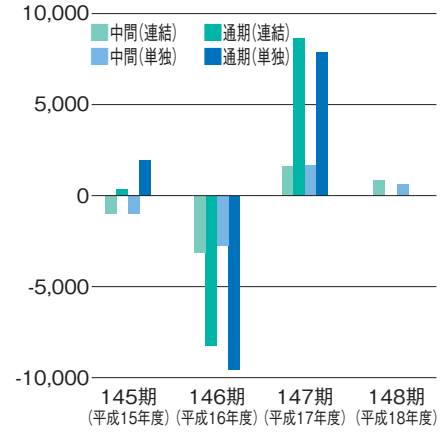
(単位：円)



中間(連結)	△2.63	△8.14	4.25	2.23
通期(連結)	0.79	△21.53	22.41	—
中間(単独)	△2.61	△7.21	4.38	1.68
通期(単独)	5.04	△24.90	20.34	—

純利益

(単位：百万円)



中間(連結)	△1,013	△3,119	1,630	849
通期(連結)	348	△8,240	8,678	—
中間(単独)	△1,006	△2,763	1,682	638
通期(単独)	1,971	△9,545	7,876	—

連結子会社

- 株式会社明治フーズマテリアル
- 株式会社道南食品株式会社
- 株式会社蔵王食品株式会社
- 株式会社明治産業株式会社
- 株式会社明治産業株式会社
- 株式会社山梨県食品株式会社
- 株式会社四国食品株式会社
- 株式会社大洋食品株式会社
- 株式会社明治アークアス株式会社
- 株式会社北里薬品産業株式会社
- Meiji Seika (Singapore) Pte. Ltd. (シンガポール)
- Cecilia Confectionery Pte.Ltd. (シンガポール)
- Five Stars Dairy Ingredients Pte.Ltd. (シンガポール)
- D.F.Stauffer Biscuit Co., Inc. (アメリカ)
- Laguna Cookie Co., Inc. (アメリカ)
- P.T. Meiji Indonesian Pharmaceutical Industries (インドネシア)
- Thai Meiji Pharmaceutical Co., Ltd. (タイ)
- Tedec-Meiji Farma S.A. (スペイン)
- Mabo Farma S.A. (スペイン)
- Meiji Seika Europe B.V. (オランダ)

(備考) 当中間期の当社グループの連結範囲は、上記連結子会社23社のほかに、持分法適用会社が1社あります。

株主優待 ご寄贈結果のご報告

当社では、本年度より株主優待制度を一部変更し、株主様のご意志により、優待品を障がい者支援団体へご寄贈いただくこともできるようにいたしました。

今回初めての取組みにもかかわらず、大変多くの株主様にご賛同いただき、また寄贈先の団体より、大変たくさんの感謝のお言葉をいただきました。

ご賛同いただきました株主様のご優待を、以下のとおり寄贈させていただきましたので、ご報告させていただきます。

- ご寄贈にご賛同いただきました株主様：1,470名
- 株主様からご寄贈いただきました優待品：410万円分
(なお、当社からも同額分の商品を寄贈いたしました。)

特定非営利活動法人日本NPOセンター様を通じ、本年は、障がいを持つ児童を中心とした支援団体、全国48団体へ寄贈させていただきました。

下の写真は、10月に3,500人規模で開催されました大阪知的障害者スポーツ協会主催の「スポーツフェスタ2006大阪」において寄贈した商品を配布している様子です。



今後も当社は、株主様一人一人のお気持ちを大切に、CSR（企業の社会的責任）活動に取り組んでまいります。

Meiji チョコレートカップ開催

当社は、健康を中核とした新しいビジネスモデルの構築を目指していますが、健康的でチャレンジ精神を常に持ち続けている女子プロゴルファー宮里藍さんをいち早く広告に起用、今や彼女は日本国内はもちろん世界が注目する選手として活躍しています。

また、昨今の女子プロゴルフ界も若手の台頭が顕著になり、世代を超えた人気スポーツとして、テレビ中継でも高い視聴率を保持しています。

このような背景から、当社は、冠スポンサーとして女子プロゴルフトーナメントに協賛し、健康を基盤としてお客様の食と健康をサポートする企業であることを効果的にアピールすることにしました。

冠大会「Meiji チョコレートカップ」では、ザバス・アミノコラーゲンを始めチョコレート・スナック等、Meiji ブランド全般をいろいろなステージでPRするとともに、北海道において新たなトーナメントの歴史をスタートさせました。そして、明治製菓が常に前向きに挑戦する企業であり、すべての方々の心と身体の元気を応援する企業であることを伝えることができました。

開催日：2006年7月7日（金）～7月9日（日）3日間
会場：札幌国際カントリークラブ 島松コース
競技方法：54ホール・ストロークプレー
賞金総額：7,000万円（優勝賞金1,260万円）



フード&ヘルスケア

●チョコレート効果板カカオ 99%

砂糖を一切加えずカカオ分で仕上げた、カカオ分99%の究極の高カカオ分チョコレートです。カカオマスポリフェノールを1箱に1,700mg配合。



楠田 枝里子

●ショコライフ

カカオ量やこだわった素材を使用した8種類の大人向き本格チョコレートです。

一口サイズで4枚入りの少量食べきりの設計。環境に優しい新開発の紙素材パッケージが特長。



桑田 佳祐

●フランエクストラ 極みの森いちご

いちごを練り込んだビスケット軸を、いちごのホイップチョコとフリーズドライいちご入りのチョコでコーティングし、上質な酸味を演出しました。



蛸原 友里

●ショパン ほどけるいちご

クランチ入りのホワイトショコラカップに2層のいちごショコラを詰め、フリーズドライのいちごとブルーベリーの粒々をトッピングした贅沢なデザートチョコです。



稲垣 吾郎



松本 莉緒

●キシリッシュガム フレッシュレモン

ミントのフレッシュ感とレモンのすっきり感が楽しめる朝専用フレーバー。「朝からさわやか」なガム習慣を定着させ、キシリッシュブランドの更なる拡大を図ります。



沢尻 エリカ

●果汁グミぶぶるん レモン味

ぷるぷる柔らかなセンターグミを果汁グミで包んだダブルの食感が味わえるグミです。味は地中海産レモン果汁を使用した爽やかなレモン味、女性に関心の高いコラーゲンを1袋に1,500mg配合。



相沢 紗世

●カシス i 黒酢

当社研究素材であるカシスポリフェノールの機能に黒酢を加えた機能性飲料。特有のポリフェノールを豊富に含むカシスの栄養を十分に活かした商品です。

薬局・薬店でお求めになれます。



●ザバス アクアホエイプロテイン100

業界初としてプロテインの透明化を実現。水に溶けやすくすっきりとしたのどごしで、運動後にスポーツドリンク感覚で飲める革命的なプロテインです。

薬局・薬店・スポーツ店でお求めになれます。



●プロテインダイエット

おいしい・健康・手軽を追求した食事代替ダイエット商品。歴史あるプロテイン技術に明治のおいしさ・特許成分をプラスし、続けやすいダイエット食品を実現しました。

薬局・薬店でお求めになれます。



●テオプロココア

高カカオを追求した本格感あふれる味わいで大人の嗜好に答えるココア。健康にうれしいポリフェノールを3倍、テオプロミンを2倍、食物繊維を2倍配合しました(いずれも当社比)。



滝沢 秀明

●ローラ シリーズ (12種類)

水なしでいつでもどこでも食べられるお手軽サプリメント。お菓子で培ったおいしさの技術を活かし、毎日続けられるお菓子感覚のチュアブルサプリメントです。

薬局・薬店でお求めになれます。



(鉄+葉酸)

●銀座スープ (3種のきのこの泡立ちポタージュ)

業界初のふんわり泡立つ新しい粉末スープの誕生。高級レストランで人気の泡で仕立てたスープを、お湯を注ぐだけで実現。まるでカプチーノのようなスープです。



「ショコライフ」の開発コンセプト



急速に高齢化が進むなか、チョコレートは50代になると食頻度が下がる傾向にあります。今後、チョコレート市場を拡大するために、ターゲットをシニア層にも拡大し、チョコレートをおやつとしての領域から大人の嗜好品へ拡張していく必要があります。そこで、現在大きく伸長している無垢チョコレートに着目し、原材料の素材、製法にこだわった高品質で、少量食べ切りサイズの商品を8種類ラインナップ。パッケージは中身がわかりやすく親切的なデザインとし、楽しみながら選んで、気軽に購入できる、魅力あるチョコレートを開発しました。増加するシニア世代を中心に“チョコレートのある豊かな生活”を提案し、チョコレート市場の活性化を図ることがショコライフの開発コンセプトです。

「明治制果食品工業（上海）有限公司」新工場稼働開始



本年8月8日、中国上海市松江工業区内に、当社菓子事業の生産拠点が稼働を開始いたしました。広東省広州市（広州明治制果有限公司）に次ぐ、2番目の中国生産拠点です。本工場は当社東海工場とほぼ同規模の6.6万平方メートルの敷地に、最新鋭の生産設備を備え、「アーモンドチョコレート」「マカダミアチョコレート」「メルティーキッズ」といった当社を代表する製品を日本と同等の品質で生産し、中国市場に供給していくものです。当社が自社で中国国内を統括および販売開拓する拠点として、2004年に設立した明治制果（上海）

有限公司が商品計画・マーケティング計画を立案し、日本からの輸入品を中心に中国市場獲得に努めてまいりましたが、本工場完成により主要製品については生産、販売まで一貫した体制が整いました。

また、本工場は見学者への対応も重視しており、地元の子供たちを中心に積極的に見学者を受け入れ、中国でのチョコレート文化の浸透に貢献してまいります。



ザバス スポーツクラブ デルタ オープン！

本年12月、当社創立90周年記念事業の一環として、大阪工場隣地に「ザバス スポーツクラブ デルタ」がオープンいたしました。「健康ソリューション」の総合ビジネスモデルとして、「明治スポーツプラザ高槻」を拡大し、アリーナ、スポーツバー、セミナールームなどを新たに有した延べ床面積約2,600坪という関西有数の規模です。

当社は、健康事業のなかでスポーツクラブ事業をコア事業のひとつとして位置づけ、「運動」と「栄養」の両面から地域社会への貢献に努めてまいります。



(外観イメージ)

ジェネリック 新製品発売

当社では、現在推進中の中期経営計画「DASH!08」において、これまで医薬品事業で培ってきたノウハウとブランドイメージを基盤に、感染症治療薬・中枢神経系用薬に並ぶ柱としてジェネリック分野を強化していく方針です。当中間期には、経皮吸収気管支拡張剤「ツロブテロールテープ」やマクロライド系抗菌薬「クラリスロマイシン」等、新たに6品目を発売し、製品ラインナップの拡充を図りました。今後も継続的に製品を発売し、また、高品質かつ安価で利便性に優れた「ユースフル」な製品の提供を通じて、患者様の多様な医療ニーズに応えるとともに、「DASH!08」の目標達成に大きく貢献してまいります。



砂糖から生まれたすごい糖

血中に糖として吸収されない“夢の糖”

「GF2 (ジー・エフ・ツー) 顆粒」新発売

GF2は砂糖から生まれた甘味成分であり、フラクトオリゴ糖の一種です。フラクトオリゴ糖は、人のからだでは糖として消化・吸収されない低カロリーの甘味成分として知られています。GF2はこのフラクトオリゴ糖の1成分であり、味と性質はきわめて砂糖に近く、常温でも安定した結晶の形をとることから様々な活用が期待される甘味成分です。

砂糖のような自然でやさしい甘みはもちろん、常温での保存、水溶けのよさなど砂糖とよく似た性質をもつGF2は、人のからだに入ったときに砂糖と大きな違いがあります。それは、GF2は有機酸として吸収されるということ、つまりは血中に糖として吸収されないことがわかっています。

また、低カロリーであることも大きな特長の一つ。GF2を主成分とした「GF2顆粒」は、カロリーが砂糖の1/2、甘味度が2倍ですので、砂糖の半分の量で同じ甘さが得られます。つまり、カロリーは1/4までカットできます。

食事を制限するのはつらいことですが、甘いものやカロリーを避けた食事をしている方でも様々な食事にご活用いただけるGF2、体重が気になる方、カロリーコントロールをしている方、毎日の料理やコーヒー・紅茶にお薦めです。



300g袋
3,150円(税込み)

主要栄養成分 小さじ1杯(2g)当たり(当社分析値)			
エネルギー	4kcal	ナトリウム	0g
たんぱく質	0g	GF2(1-ケストース)	2.0g
脂質	0g	ショ糖	0g
炭水化物	2.0g		

明治製菓から通信販売でお届けします。

●電話：0120-87-3110

- ・営業時間9:00~21:00(土曜・日曜・祝日も受付。年末年始を除く)
- ・携帯電話、PHSからでもご利用いただけます。

●インターネット：<http://meiji-gf2.jp/>

役員

(平成18年9月30日現在)

●取締役および監査役

※	代表取締役社長	佐藤 忠男
※	代表取締役社長	高橋 允喜
※	専任取締役	坪崎 正彦
※	専任取締役	長崎 信彦
※	専任取締役	松塚 正治
※	専任取締役	塚尾 政宏
※	専任取締役	西長 幸史
※	専任取締役	松森 宏英
※	専任取締役	森嶋 敏正
※	専任取締役	矢野 昭隆
※	専任取締役	飯田 隆男
※	専任取締役	蓮澤 恭維
※	専任取締役	金野 秀
※	専任監査役	狩野 義
※	専任監査役	狩野 義
※	専任監査役	狩野 義

(注) 上記※印の取締役は執行役員を兼任しております。

●執行役員

常務執行役員	真壁 理樹
常務執行役員	高橋 彦美
常務執行役員	溝口 豊
常務執行役員	佐藤 榮一
執行役員	入江 利一
執行役員	福井 文雄
執行役員	横中 紀孝
執行役員	北村 正定
執行役員	小河 野良
執行役員	中野 慎二
執行役員	荒森 幾雄
執行役員	小松 春隆
執行役員	浅田 造仁
執行役員	内田 仁央
執行役員	下田 容

従業員

(平成18年9月30日現在)

従業員数(前期比)	平均年齢	平均勤続年数
4,005名(28名増)	40.1歳	16.9年

(注) 従業員数には当社から他社への出向者が含まれており、臨時従業員は含まれておりません。

主要な事業所

(平成18年9月30日現在)



東京都中央区京橋二丁目4番16号



フード&リスキア／北海道統括支店(札幌)、東北統括支店(仙台)、首都圏統括支店(東京)、北関東統括支店(宇都宮)、中部統括支店(名古屋)、関西統括支店(大阪)、中四国統括支店(広島)、九州統括支店(福岡)、健康事業北海道支店(札幌)、健康事業東北支店(仙台)、健康事業首都圏支店(東京)、健康事業北関東支店(宇都宮)、健康事業中部支店(名古屋)、健康事業関西支店(大阪)、健康事業中四国支店(広島)、健康事業九州支店(福岡)

薬品／薬品札幌支店、薬品仙台支店、薬品東京支店、薬品横浜支店、薬品関東支店(さいたま)、薬品名古屋支店、薬品京都支店、薬品大阪支店、薬品中国支店(広島)、薬品四国支店(高松)、薬品福岡支店、農薬札幌支店ほか5農薬支店、動薬北日本支店(仙台)ほか3動薬支店



フード&リスキア／関東工場(坂戸)、東海工場(藤枝)、大阪工場(高槻)

薬品／北上工場、小田原工場、岐阜工場(北方)



フード&リスキア／食料健康総合研究所(坂戸)

薬品／微生物資源研究所(小田原)、医薬総合研究所(横浜)、生物産業研究所(横浜)



ロンドン事務所、北京事務所、中国事務所(上海)

(注) () 内は、当該事業所が所在する都・市・町名を示しております。

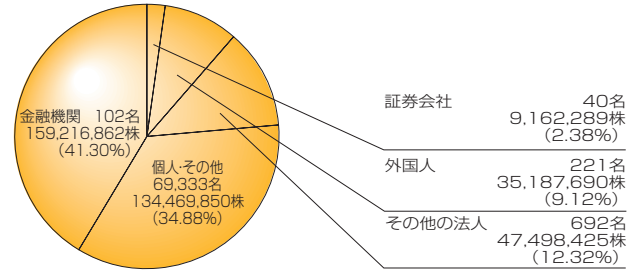
株式の状況

(平成18年9月30日現在)

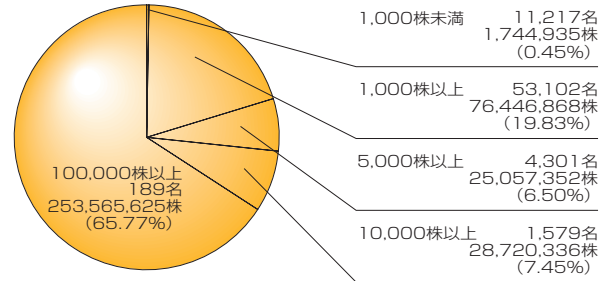
- 発行可能株式総数 796,104,000株
- 発行済株式の総数 385,535,116株
- 株主数 70,388名 (前期末に比し773名減)
- 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (出資比率)
株式会社みずほ銀行	千株 18,861 (4.89%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	16,867 (4.37)
第一生命保険相互会社	16,163 (4.19)
日本生命保険相互会社	14,707 (3.81)
富国生命保険相互会社	10,001 (2.59)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	9,829 (2.55)
明治乳業株式会社	9,003 (2.34)
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,804 (1.77)
東京海上日動火災保険株式会社	6,512 (1.69)
三菱UFJ信託銀行株式会社	5,481 (1.42)

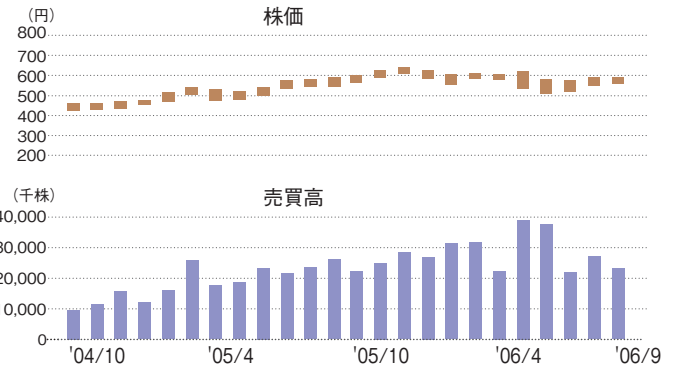
所有者別



持株数別



株価等の推移



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

基準日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
※別途定める場合は、予め公告します。

定時株主総会 6月下旬

公告方法 日本経済新聞に記載
なお、会社法第440条第4項の規定により決算公告は行っておりません。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部

(電話お問い合わせ
郵便物送付先) 〒171-8508
東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店
野村證券株式会社全国本支店

**実質株主の諸届
に関する特例** 届出の内容によって証券会社等を経由
すべき場合がありますので、あらかじめお取引の証券会社等にご確認ください。

単元株式数 1,000株

**単元未満株式の買取
および買増請求場所** 株主名簿管理人事務取扱場所および同取次所
(証券保管振替機関に預託されている単元未満株式については、お取引の証券会社等にお申し出ください。)

《お知らせ》

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金を郵便貯金口座へお振り込みすることができます。お手続には振込指定書のご提出が必要となりますので、株主名簿管理人に用紙をご請求ください。
- 当社は、単元未満株式の買増制度を導入しております。単元未満株式(1,000株未満の株式)をご所有の株主様は、その単元未満株式と併せて1単元(1,000株)となる数の株式の買増しを請求することができます。制度の内容および手続の詳細につきましては株主名簿管理人にご照会ください。

■株主様へのご優待

3月31日現在の1,000株以上所有の株主様に対し、以下の基準で当社製品を**10月末**に贈呈いたします。なお、本年より詰合せの内容を充実させるとともに、株主様のご意志により、優待品を福祉団体へご寄贈いただくこともできることといたしました。

- 1,000株以上：2,000円相当
- 3,000株以上：3,500円相当
- 5,000株以上：5,000円相当



●製品は一例です(3,500円相当)。

明治製菓株式会社

〈お問い合わせ先〉

〒104-8002

東京都中央区京橋二丁目4番16号
電話 (03) 3272-6511(代表)

 ホームページ (<http://www.meiji.co.jp>)


環境に配慮した「大豆油インキ」
を使用しています。


古紙配合率100%再生紙